

創業の精神・経営理念

リコーの事業展開の原動力となってきたのが、創業の精神「三愛精神」と、それに基づく経営理念です。リコーは1936年の創業以来、つねにお客様の視点に立ち、自ら新しい価値(商品・サービス)を創造することによって、新しい市場を創造してきました。たとえば複写機やファクシミリは、従来、特定の市場や用途を対象とした

高額・大型製品でしたが、リコーが、お客様の視点に立ち、企業使命として技術革新を行ったことにより、世界中の多くのお客様に普及し、市場は拡大しました。この企業姿勢は、環境経営の実現や、デジタル&ネットワーク時代への対応を進めている現在も、変わることなく受け継がれています。

創業の精神

人を愛し、国を愛し、勤めを愛す 三愛精神

創業の精神

リコーの創業者である市村清は、「三愛精神」を創業の精神とし、次のように説明しています。

「人を愛し、国を愛し、勤めを愛すという三愛精神は、私の生涯の信念である。真に人間の偉さを決定するものは、その人の持つ『愛』の深さと広さではないだろうか。すべての動物に自己保存の本能があるように、人間も本能的に自己を愛する。どんな人間でも、自分だけは愛している。愛の深まりと広がりとともに、配偶者や子供を愛し、両親を愛し、兄弟を愛する。そして隣人愛に目覚め、それが民族愛に、祖国愛になり、世界の全人類を愛する。さらに徹底すれば、すべての動植物、ありとあらゆるものを自分と同じように愛し、ついには自己以上に愛するようになる。このように愛の深さと広がりが、どのくらいの段階に達しているか、それがその人間の本当の価値を決定するものであると確信する」。

リコーが環境保全に積極的に取り組む背景には、この「三愛精神」があります。環境保全は、地球市民としての使命・責任を持って対応すべき課題であり、環境法規制やお客様の関心、競合企業の進み具合を気にしながら横ならみ姿勢で対応する課題ではありません。グローバルに事業を展開するリコーは、環境保全の分野でもグローバルなトップランナーでなくてはならないと強く認識しています。

経営理念

私たちの使命

人と情報のかかわりの中で、世の中の役に立つ
新しい価値を生み出し、提供しつづける

私たちの目標

信頼と魅力の世界企業

私たちの行動指針

自ら行動し、自ら創り出す
(自主創造)

相手の立場にたって考え、行動する
(お役立ちの精神)

会社の発展と個人の幸福の一致をはかる
(人間主体の経営)

経営理念

リコーの経営理念は、創業の精神「三愛精神」に基づいて定められたもので、「使命」「目標」「行動指針」によって構成されています。この経営理念は、高度情報化社会の進展、価値観の多様化、競争の激化など、変革の時代にふさわしい社風や企業体質を醸成・育成していくために、1986年に定められたものです。